

咸臨丸にゆかりのある地



■咸臨丸子孫の会

咸臨丸の太平洋横断時の乗組員の子孫の方々、咸臨丸の歴史や文化に関する研究者等の方々のグローバルな連携組織。咸臨丸の偉業を広く正しく後世に語り継ぐとともにその意味するところを今日の社会に役立てようと活動しています。1994年設立。

■宮城県白石市

明治4年9月、戊辰戦争に敗れた仙台藩白石片倉小十郎家臣団401名は、蝦夷地(北海道)に移住することを余儀なくされ、咸臨丸に乗って仙台寒風沢を出港する。武士の身分は剥奪されたが、刀を持つことだけは許されたという。この片倉一族が咸臨丸最後の乗船者となる。

■塩飽諸島(丸亀・坂出・多度津)

太平洋横断時の咸臨丸乗組員107名のうち、水夫は50名であった。その多くが塩飽出身であった。塩飽諸島は、岡山県と香川県にはさまれた西備讃瀬戸に浮かぶ大小28の島々からなり、戦国時代には塩飽水軍が活躍し、江戸時代には人名による自治が行われた。

■長崎市

安政4年(1857年)3月、完成した咸臨丸はオランダのヘレフォートスライス軍港を出港し、8月長崎の出島に投錨した。安政5年(1858年)、咸臨丸は海軍伝習所の伝習生を乗せ、延べ5回にわたり、帆や大砲の操作などの乗船実習を行った。

■土佐清水市

土佐清水に生まれたジョン万次郎は、天保2年(1841年)、14歳の時、出漁中に漂流し、アメリカの捕鯨船に救出された。船長にその才能を認められ勉学に励み、11年後に土佐へ帰った。その後、万次郎は翻訳や航海術の才覚により、咸臨丸渡米時の通訳として活躍した。東大の前身である開成学校教授も勤めた。

